

ハトミ.com 国民の声提案内容

「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会

提案の区分: 国の予算(事務・事業)及び組織の改革・改善につながる提案・指摘(身近な国のムダなど)

提案事項名(タイトル)

予防接種事業の見直し。予防接種法の一類疾病の拡大、未導入ワクチンの承認および予防接種制度の再構築。

提案の視点 ・新たな事業の実施

提案の具体的内容

任意接種である Hib ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、HPVワクチン、B 型肝炎ワクチン、水痘ワクチン、流行性耳下腺炎ワクチン、インフルエンザワクチン(小児)を予防接種法の定期一類疾病に指定することで、保護者の経済格差、情報格差によらずに、すべての子どもたちをVPD(ワクチンで防げる病気)から守ることを提案します。また接種率向上の対策の整備も必要です。保護者に定期予防接種の疾病だけでなく任意予防接種ワクチンの疾病に関する情報発信、啓発とともに、「VPD 白書」の発刊を提案します。

提案理由

日本の予防接種制度は世界から大きく遅れ、未だにワクチンで防げる病気(以下VPDと略)の被害が大変多いものです。日本の将来を担う子どもたちの救えるはずの命や健康を損なうことほど不幸なことはありません。良い予防接種制度は、良いワクチンの種類と接種率を最大に高める方策を取りそろえることです。予防接種の基本の法律である予防接種法から始まり、それに関連する総ての法律や規則を根本から見直すことが必要です。まず早急の対策として、ワクチン接種率向上の最大の障壁である接種料金対策が急務です。上記の任意接種ワクチンを定期一類疾病に指定することで、保護者の経済格差、情報格差によらずに、すべての子どもたちをVPD(ワクチンで防げる病気)から守ることを提案します。今後は、未導入のロタウイルスワクチン、不活化ポリオワクチン、各種の混合ワクチンの早期の認可が待たれます。ただしこれだけでは接種率の最大限の向上には不十分です。すなわち定期接種の麻疹ワクチンで防止できる麻疹の流行がこれだけ続いていることの総括を参考に、接種率の向上のための多くの方策を同時に実施しない限り、達成は不可能です。中でもVPD情報が発信されていないことへの対策が急がれます。特に任意接種ワクチンのVPDに関しては情報不足が顕著であり、当会が 2007 年に実施した調査では、7 割を超える保護者が「任意接種は受けてもうけなくても良い」と回答しており、任意接種ワクチンの重要性が正しく理解されていないことがわかります。今後、厚労省は毎年VPD白書を作成して、被害の実態と今後とるべき方針を出すことが望まれます。これらのことで国民の医療費削減がはかれます。以上が今回の予防接種事業の見直しに関するご提案の理由です。

提案の対象となる予算及び組織の名称 予防接種事業

予算及び組織の所管省庁 厚生労働省

新成長戦略の戦略分野 健康大国戦略 雇用・人材戦略

提案主体名 「VPD(ワクチンで防げる病気)を知って、子どもを守ろう。」の会

「提案主体名」及び「求める具体的内容・提案理由」の公開の可否 両項目とも公開

提案主体分類コード p 任意団体

提案者名(非公開) 代表 園部友良